



ゆめ通信

2021.7.1. No.117

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

第21期豚事協セミナー概要決定

毎年全国7支部で開催しておりました支部セミナーですが、今年も参集してのセミナー開催は厳しい状況であることからウェブ開催とすることとし、全組合員を対象とした「豚事協セミナー」として、1日1回講師1名ずつのセミナーを3回開催することになりました。講演配信後には講師も交えて質疑応答を行います。また、毎年セミナー前に行っていた理事長・副理事長と組合員との意見交換会はセミナーとは別の日にズームを使用したオンライン形式で、支部毎の括りをとって組合員全員を対象として行うことになりました。懇親会のような雰囲気できれいに参加いただけるよう各自飲食しながらの参加を可能とし、時間を遅めに設定しました。

第1回豚事協セミナーでは迫田義博氏（北海道大学大学院獣医学研究院微生物学教室・教授）を講師に迎え、「これからの豚熱対策」と題してご講演いただきます。群馬県、三重県での豚熱ワクチン接種地域での豚熱感染や、和歌山県での豚熱ワクチン接種豚での豚熱感染なども発生していることから、それらの点に知見の高い迫田先生に、豚熱ワクチンにおけるいわゆる“免疫の穴”や先生が仰っている「20世紀のワクチン漬け」について、また豚熱マーカーワクチンについて解説いただきます。

第2回豚事協セミナーでは鹿熊修氏（（有）稲波フ

ーム・組合員）を講師に迎え、「今後、我が国で求められる繁殖母豚とは」と題してご講演いただきます。元優良ブリーダー（元（有）鹿熊種豚場・代表取締役）としての経験から、我が国の繁殖母豚の変遷と、緻密に集積、分析を重ねたデータを背景に、今後我が国の養豚生産において求めるべき繁殖母豚についてお話しいただきます。また、過去からのデータとブリーダーとしての目で見えた繁殖母豚評価と繁殖母豚管理のポイントについてもお話しいただきます。

第3回豚事協セミナーでは（有）メンデルジャパンの皆様を講師に迎え、「日本市場に求められるデュロック遺伝子“メンデルデュロック”の有用性について」と題してご講演いただきます。前期の支部セミナーでは、「メンデルジャパンについて」と題してAI技術と育種事業についてご講演いただきました。今回は、特に実績抜群のメンデルデュロックの有用性について掘り下げて解説いただきます。併せてメンデルデュロックを使用している組合員の成績紹介や動画紹介も行います。

豚事協セミナーはどなたでも参加可能です。（意見交換会は組合員のみとなります。）みなさんお誘いあわせの上、是非多くの方々にご参加いただけますようお願い申し上げます。（東野）

●豚事協セミナー（オンライン形式）

	開催日時	演題	講師
第1回	7月8日（木） 14時～	「これからの豚熱対策」	迫田義博氏 （北海道大学大学院獣医学研究院微生物学教室・教授）
第2回	8月19日（木） 14時～	「今後、我が国で求められる繁殖母豚とは」	鹿熊修氏（（有）稲波ファーム）
第3回	9月9日（木） 14時～	「日本市場に求められるデュロック遺伝子“メンデルデュロック”の有用性について」	（有）メンデルジャパン

●意見交換会（オンライン形式）

開催日時	対象	備考
10月28日18：00～20：00	全組合員（従業員含む）	飲食可

我が国の自然災害は年々激しさを増しております。

この機会に火災や台風、水害などの天災に備え、豚舎と生体の補償を見直しを検討されては如何でしょうか。
今回は豚事協でご紹介可能な保険代理店2社より、損害保険のご紹介をさせていただきます。

豚事協会員のみなさまへ ～安心を最良・最適の形に！！～

丸紅セーフネット株式会社
総合法人営業部 稲葉 将



はじめに

弊社は丸紅株式会社のグループ企業で損害保険・生命保険を扱う保険の代理店です。取扱保険会社46社の中から皆様に最適の保険商品をご案内させていただいております。あくまでも問題解決のお手伝いをさせていただきます。このようなスタンスで営業活動を行っており、みなさまの課題解決の一つとして保険の見直しや丸紅グループをご活用頂ければ幸いです。

松村理事長の想い

「大規模な自然災害の度に保険に入っとけばよかったと言われることが残念でならない。みんな自分の愛車には手厚く車両保険をかけているが、はたして豚舎や豚（生体）の保険には加入しているのだろうか。」

このような理事長の強い想いを私個人としてはとても大事に思っており、保険という形の存在しない商品を皆様のもとへご案内することを社会貢献の一つとして捉え、皆様のお役立ちできますよう尽力することをお約束します。

備えあれば憂いなし

「数十年に一度の災害」聞き慣れたフレーズを幾度となく耳にする度に、生産者の皆様は大丈夫だろうか？万が一罹災した際には適切な保険に入っているだろうか？職業柄このような不安にかられることが多くあります。毎年のように大規模な自然災害が日本を直撃すれば損害保険料は上昇の一途をたどります。最近では2019年10月、2021年1月に火災保険の料率改定（事実上の値上げ）が行われました。そこで、火災保険の見直しや長期化（最大で5年間）を検討頂くことで、コストダウンが見込め、純利益の増加につながるご提案が可能です。被災からの事業再開には多くのエネルギーが必要となると同時に多額のお金、時間を必要とします。万が一の際、経済的な安心が会社のみならず、従業員の雇用や生活を守る

ために保険は必要不可欠な存在であると考えます。

本格的な台風シーズン到来

お忙しい中とは存じますが、今回の「ゆめ通信」をきっかけにご自身の会社でどのような保険に加入しているか今一度確認してみたいはいかがでしょうか。通常、火災保険は火事だけでなく台風による風災リスクも補償します。また、火災保険の種類によっては水災に対する補償もございますのでチェックしてみてください。

豚舎のみならず、皆様の財産となる豚（生体）の補償についても今一度ご検討してみてください。ウィンドレス豚舎での空調機器の事故に伴う窒息死の補償。さらには新しい保険商品として豚熱・アフリカ豚熱を補償する特殊な保険もご案内可能です。

訴訟トラブルはすぐそこに…

従来の家族型経営から、従業員を雇い経営方針を転換している企業が増えてきていると伺いました。業務中における従業員の熱中症やケガのリスク、一昔前は想像すらしなかったパワハラやモラハラを原因とする従業員からの訴訟リスク。さらには労災トラブルを起因とした訴訟リスクetc…

列挙すればきりがありませんが、数多くあるリスクを経営者としての的確に把握、精査し、常備薬のように保険として備えておく必要があると思います。会社と与える経済的・社会的な影響が大きいリスク程、保険として準備しておくべきことのように思います。

結びのごあいさつ

松村理事長をはじめ、皆様のおかげで2018年に豚事協の賛助会員になり、早いもので4年目となりました。興味やご関心のある保険につきましてお気軽に相談いただけますと幸いです。今後とも多様化する様々なリスクに関する情報を発信していければと思います。

火災・自然災害リスク対策を考える ～防災・減災強化と保険の備え～

日の出物産株式会社
横井 克典

1. 日の出物産株式会社の紹介

日本養豚事業協同組合の皆様、毎日の仕事お疲れ様です。日の出物産株式会社は愛知県小牧市に本社を置き「種豚販売と養豚の技術サポート」「養豚設備の販売と施工」「損害保険事業（当社は損害保険ジャパン㈱代理店となっております）」を主業とする会社です。

今回、保険営業部はゆめ通信に紙面を頂き、表題としました、「自然災害リスク対策」と「火災保険」について書かせて頂きますのでお願い致します。

2. 火災・自然災害リスク対策



先に結論を申しますと、火災・自然災害対策で最も重要な事は「防災・減災対策を行った上で、万が一に備えて保険に加入する事」と言えます。

皆さんにとって事業の一番の目標は「大切に育てた豚や建物・設備が災害に合う事なく、豚が無事出荷され、消費者へ届けられる事」だと思っています。

では、火災や自然災害に対する防災・減災強化はどの様にすれば、良いのでしょうか。

① 火災・自然災害の発生原因を理解する

養豚事業で多発する火災の原因、自然災害による被害拡大の原因を理解する。（※1 自然災害では、その年に起こる災害の種類も予見します）

② 防災・減災の為に対策シートを作成する

例えば、台風シーズン前に屋根やカーテンに破れないか、確認する事で被害の拡大が防げます。風災は少しの破れ目から、被害が拡大します。

③ 対策計画（対策と各人の役割）の策定

防災・減災強化策を考え、チームにより全員で対応します。大切な事はメンバーの皆さんに負担感が少なく、分かり易い内容とする事です。

3. 万が一の備えとして火災保険を検討



メンバーの皆さんの力で、防災・減災が強化できた場合でも、自然の猛威には対抗できない場合もあります。そこで、大切なのが火災保険での備えになります。火災保険は様々な商品がありますが、「火災、落雷、風災、雪災」は基本補償となっているものが多いと考えます。

そこで、火災保険を検討する際のポイントを3つ記載しておきます。

① 補償される災害の範囲

火災、風災等、補償される災害の範囲と補償される事故、されない事故を把握する。

② 補償の対象とする目的の範囲

補償の対象は建物、什器・設備、商品等に分けて契約しますが、契約を希望する保険の目的が漏れていないか。

③ 補償の保険金額設定

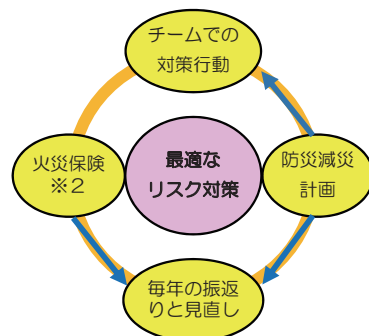
災害により、損害が発生した場合の補償の限度額を幾らで設定するか。その方法を理解する。

災害対策として、火災保険で備える場合、この3点を理解して頂く事で、皆さんの農場にマッチした保険とする事が出来ます。

4. ～まとめ～日の出物産㈱の役割



当社は「防災・減災計画の策定」「事業財産等を守り、リスク管理を補う方法」を、お手伝いさせて頂きたいと考えますので是非ご相談下さい。



※1 太平洋の海水温の分析による、エルニーニョ監視指数の発表や、日本近海の海水温の傾向からその年の災害の傾向を考えます。

※2 本記事は、防災・減災に対するアドバイスを目的とします。具体的補償、提案につきましては別途ご相談に応じますので、ご連絡下さい。

日の出物産株式会社 横井
愛知県小牧市大字大草5995
☎080-2633-0771 ✉k_yokoi@crestfarm.co.jp

Topics

PigINFOから得られる農場の生産成績の過去10年間の傾向とPigINFO Bio・PigINFO Healthについて

(国研)農研機構 動物衛生研究部門
山根逸郎、山崎尚則、佐々木公子

農研機構・動物衛生研究部門では、日本養豚開業獣医師協会（JASV）との共同研究で、ベンチマーキングシステム（PigINFO）を開発してきました。PigINFOは3ヶ月おき（毎年1月末・4月末・7月末・10月末）にデータを提出して頂き、四半期単位及び過去1年単位での解析結果の冊子を農場ごとにお返ししています。また希望する農場にはインターネット（Web）上でも成績結果を閲覧することができるようになっております。

毎年5月にJASVが東京にてPigINFOに関わるベンチマーキングセミナーを開催しており、本年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のためオンラインでの開催となりました。セミナーでは、筆者らによる前年一年間の成績の推移の特徴を紹介するとともに、特定の指標（粗利益／母豚／年、出荷枝肉重量／母豚／年、離乳子豚数／母豚／年、農場枝肉飼料要求率、離乳後事故率）の上位成績の農場の表彰を行っています。また上位成績の農場の方に、優良成績となった背景や要因などについてお話し頂いています。本稿ではセミナーで発表した内容のうち、過去に遡った生産成績の推移を紹介し、今回2部門で優良成績となった有限会社稲波ファームの成績推移の一部を紹介致します。その他、現在研究テーマとして取り組んでいる農場での抗菌剤の種類や量を客観的に評価するシステム（PigINFO Bio）と、養豚場における慢性疾病の状況を継続的に評価するシステム（PigINFO Health）について紹介致します。

まず、データ数（母豚数ベース）の推移（図1）では、PigINFOが誕生した2011年は6万5,378頭でしたが、2020年は13万7,072頭と10年前と比較するとおよそ2倍の数値に増加しました。この理由として、

PigINFOに参加した農場数が2011年の110戸から2020年に180戸前後と参加農場が増えた事に加えて、参加農場の平均母豚数が増加した影響が考えられます。

出荷枝肉重量（／母豚／年）が2,000（kg／母豚／年）以上の農場の戸数（いわゆる2t養豚）は2016年から急激に増加しており、2020年では35戸と5軒に1軒の農場で2t養豚を達成していることが読み取れます（図2）。また、離乳子豚数（／母豚／年）28頭以上の農場の戸数（図3）では2016年の20戸か

図1 データ数（母豚数ベース）

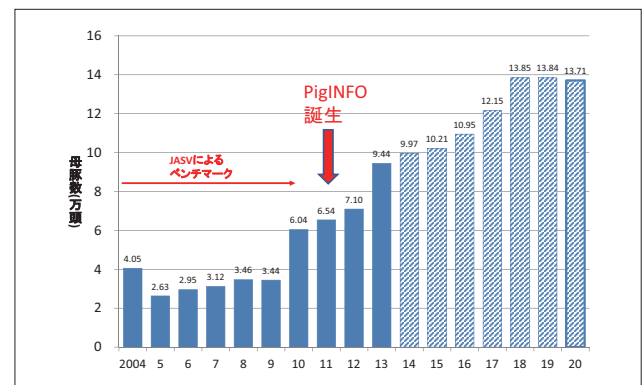


図2 出荷枝肉重量（／母豚／年）～2,000kg以上の農場の戸数～

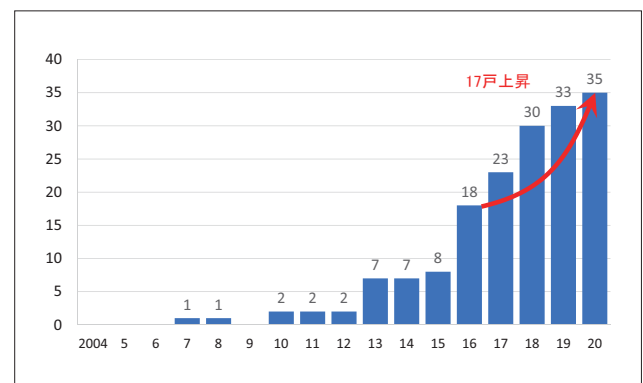
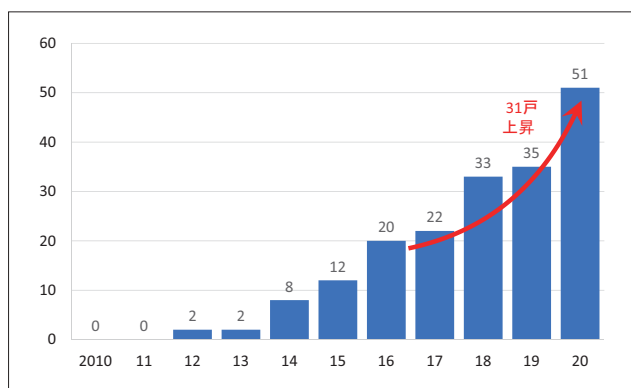


図3 離乳子豚数（／母豚／年）～28頭以上の農場の戸数～



ら2020年の51戸と急上昇しました。近年の離乳子豚数の継続的な増加は、農場における多産系の母豚の導入や遺伝改良の進歩等の影響が大きいと考えられます。その他、多くの項目が過去10年で成績が上昇しています（図4、5）。近年、平均産子数が増えた事で、それに連動する項目が上昇したと考えられます。一方、過去10年間でやや悪化した指標ではワクチン・抗菌剤費、哺乳中死亡率、平均死産数が挙げられます。これらは、養豚場においては現在でも慢性疾病等の発生に伴う損耗が大きく、また2014年

図4 過去10年で成績が上昇した項目

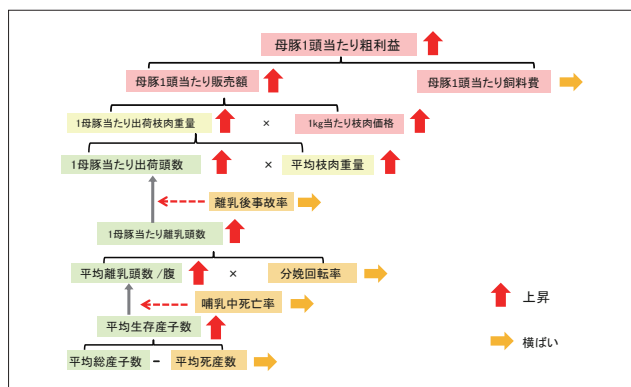
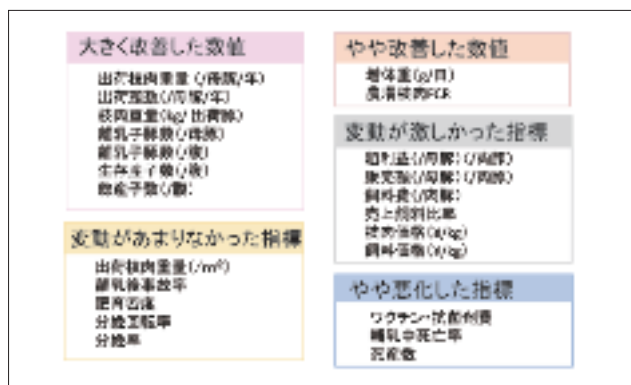


図5 PigINFOの過去10年のデータ推移の傾向



PED（豚流行性下痢）が発生し、ワクチン・抗菌剤費（／肉豚）が1頭当たり1,450円から1,800円上昇したことなどの影響が考えられます。養豚場での疾病対策は、今後も非常に重要な課題と言えます。

ここから、ベンチマーキングセミナー 2020年 2部門（出荷枝肉重量／母豚／年と離乳後事故率）で最優秀賞を受賞した有限会社稲波ファームの成績推移の紹介を致します。本農場は現在、母豚数は70頭前後で家族3人で営んでいる農場です。稲波ファームの粗利益（／母豚／年）（万円）は2016年以降成績が急上昇し、2018年からは上位10%（黒色の線）を越え非常に高い値となっています（図6）。出荷枝肉重量（／母豚／年）（kg）も2014年1,800kgから2020年は2,439kgと1頭あたり639kgの上昇が認められました（図7）。離乳子豚数（／母豚／年）、出荷日齢、農場枝肉FCRも2017年以降全国の平均中央値を超え高い推移となっています（図8、9、10）。一方、枝肉価格（／kg）（図11）は全国の前年値と同等の水準で推移しています。これらのことから、本農場では母豚当たりの生産性を改善することで利益が上昇している

図6 粗利益（／母豚／年）（万円）

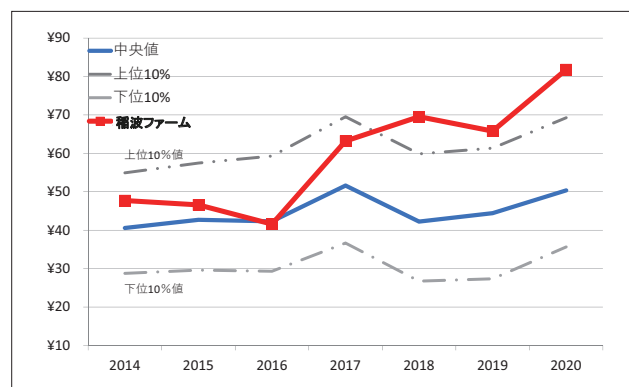


図7 出荷枝肉重量（／母豚／年）（kg）

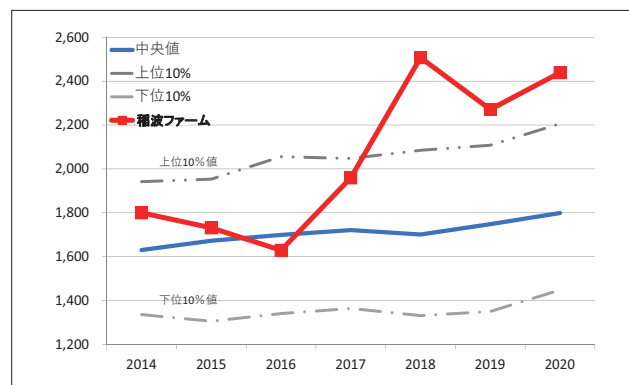


図8 離乳子豚数（／母豚／年）

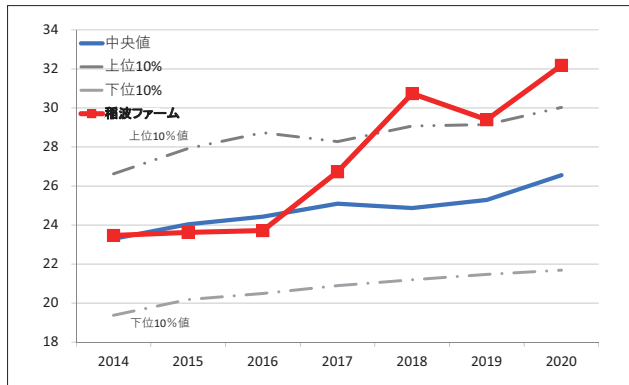


図9 出荷日齢

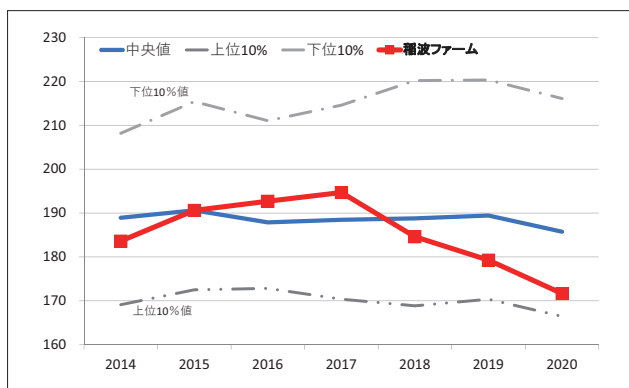


図10 農場枝肉FCR

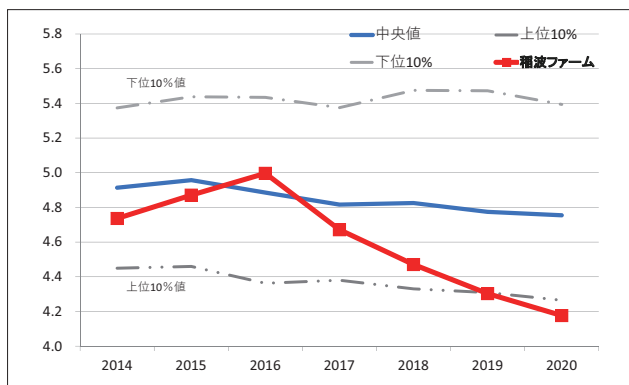
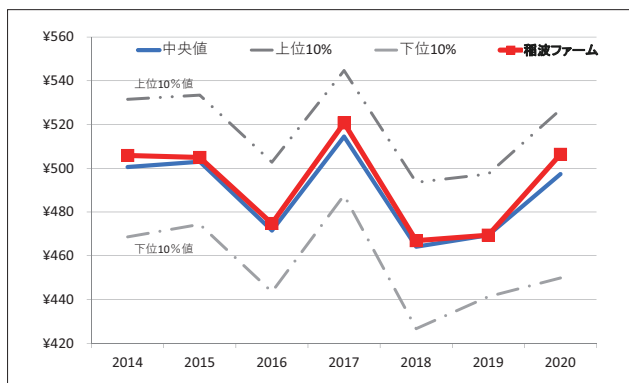


図11 枝肉価格（／kg）



と読み取れます。稲波ファームの2014年と2020年を比較した成績は（図12）に示しました。母豚当たりの粗利益の上昇に母豚数を掛けると、年間当たりの粗利益が、この6年間で2,385万円（70頭×（¥817,998－¥477,251）上昇したことになります。農場主は、優秀な成績に至るまでの成功のカギの一つとして、図13のような具体的な成功のカギを挙げられていました。この中で、4）ベンチマーキングを活用し改善点を踏まえ家族とじっくり話し合い向き合う事で経営改善に繋がった、の部分が特に重要です。

畜産分野における薬剤耐性菌のリスクが近年大きな課題となっており、家畜生産現場での抗菌剤使用量の戦略的な削減が求められています。抗菌剤使用量の適正な削減のためには、農場で使用されている抗菌剤の種類や量を客観的に評価するシステムが不可欠です。筆者らは農林水産省の委託プロジェクト「薬剤耐性問題に対応した家畜疾病防除技術の開発（2017-2021年）」に参加し、養豚農場における抗菌剤の使用量を評価するベンチマーキングシステム（PigINFO Bio）の開発と運用を行っています（図14）。PigINFO Bio では、農場が購入した抗菌剤のデータ（獣医師の指示書や薬剤の売上の領収書等）をJASVの獣医師を介して収集し、抗菌剤の系統や種類、さらに投与経

図12 経営が改善された実例

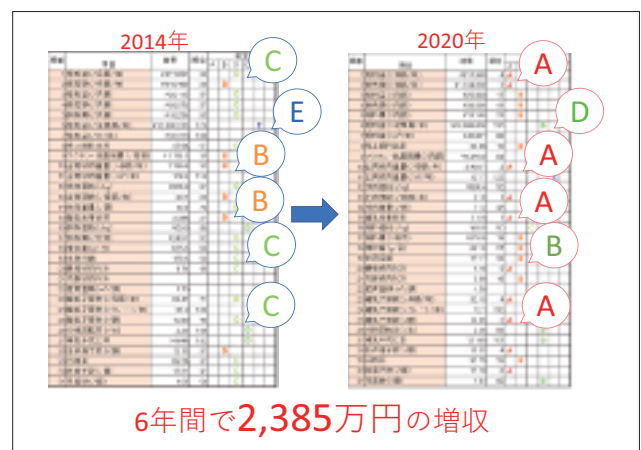
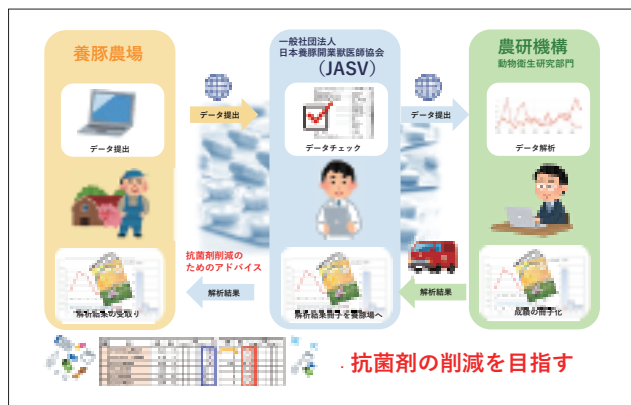


図13 稲波ファームの成功のカギ

- 1) 離乳子豚数の増加と離乳後事故率の減少による出荷頭数の増加
- 2) 増体量と飼料効率（FCR）の改善
- 3) 優れた繁殖技術に支えられた高い分娩率
- 4) ベンチマーキングを活用した成績の把握と向上

図14 PigINFO Bio（養豚農場の抗菌剤使用の実態評価）



路（注射や経口）別に使用量（／出荷頭数）を農場ごとに算出します。PigINFOと同様に、抗菌剤の使用量を参加農場間で比較し、使用量のレベルに応じて評価値（A～F）を付け、半年に一回解析結果を農場と獣医師に返却しています。PigINFO BioはPigINFOと併用することで、離乳後事故率や出荷日齢などの生産成績を確認しながら、積極的な抗菌剤の削減に取り組むことが可能になります。

生産者や養豚場を指導する獣医師は、日々、様々な対策を行っていますが、国内の一部農場においては、慢性疾病に悩まされている現状があります。これらの慢性疾病の発生は、育成豚の死亡や増体量の減少を引き起こし、結果的に生産者の経営に大きな損耗を与えています。これらを踏まえると、実際に農場で発生している疾病の種類や発生頻度を定量的かつ継続的に評価可能なデータがあれば、臨床の獣医師や生産者にとってより効果的な衛生対策を選択する上で有効な情報源となり、さらなる慢性疾病対策になると考えます。そこで筆者らは、食肉衛生検査所に集積される検査データに注目しました。養豚場から出荷された豚は食肉衛生検査所にてすべての出荷豚の肉や内臓の衛生検査が行われ、病変部の種類や数が記録されています。それらのデータを有効活用し2018年より養豚場における疾病の発生状況を評価するシステム（PigINFO Health）を構築しました。PigINFO Healthでは、農場から出荷された豚の総数に占める各種病変部が検出される割合を病変の種類ごとに「廃棄率」として月次で解析し、養豚場、養豚場を担当する獣医師、食肉衛生検査所に月に1回冊子とオンライン（PigINFO Health web）で結果の返却を行っています（図15、16）。生産者や獣医師はIDとパスワードでwebに入り、自農場又は対象と

図15 PigINFO Health（食肉衛生検査データの豚慢性疾病対策システム）



図16 PigINFO Health webの開発



する農場の各種病変部の検出率を時系列で閲覧や印刷する事ができます。それらの情報を基に、農場の慢性疾病や衛生環境改善に迅速に対応する事ができます（図16）。2021年2月現在、PigINFO Healthに参加している農場は、全国の10道県の9つの食肉衛生検査所に提供している60農場になります。

農場の経営向上のためには、客観的なデータの把握と活用が重要になります。PigINFOは養豚農家であれば、どなたでも参加は可能です。PigINFOのシリーズへの参加やお問い合わせについては、下記を参照して下さい。

日本養豚開業獣医師協会事務局（担当：北川）
TEL: 029-875-9090
FAX: 029-307-8063
受付時間（土・日・祝祭日・年末年始を除く）9：00～17：00
mail pig.jasv@r7.dion.ne.jp
URL <http://www.e-jasv.com/>

＜農林水産省からお知らせ＞
～「みどりの食料システム戦略」の策定について～

我が国の食料・農林水産業は、生産者の減少等による生産基盤の脆弱化や農山漁村の地域コミュニティの衰退、気候変動やこれに伴う大規模自然災害等様々な課題に直面しています。また、SDGs（持続可能な開発目標）や環境への対応が重視されるようになり、2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けて、食料・農林水産業の分野においても貢献が求められています。

更に、EUが2020年5月に「Farm to Fork戦略」を発表するなど、諸外国では、環境や健康等に関する戦略を国際ルールに反映させる動きが見られます。

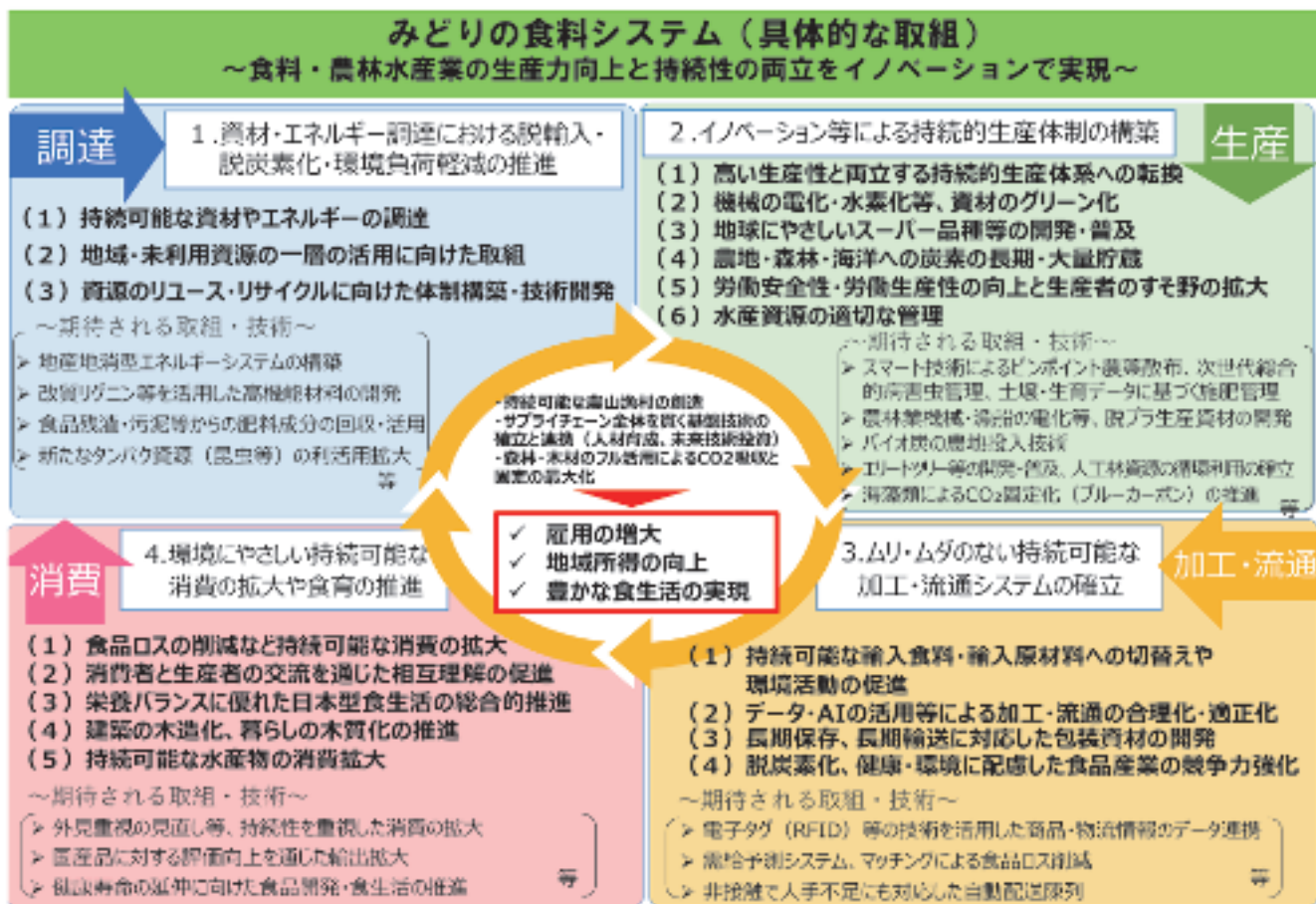
こうした中で、我が国でも、持続可能な食料供給システムを構築していくことが急務となっていたことから、この度、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるための

新たな政策方針として、生産者をはじめ、様々な関係者との意見交換を経て「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

2050年までに目指す姿として農林水産業のCO₂ゼロエミッション化の実現等を掲げており、畜産関係では主に以下のような取組を推進していくこととしています。

- 飼料の代替としての新たなタンパク資源（昆虫、藻類、水素細菌）の利活用拡大
- 堆肥の高品質化、ペレット化、堆肥を用いた新たな肥料の生産、広域流通の推進による循環利用システムの構築
- 温室効果ガス排出量が少なく、省力的で低コストな家畜排せつ物処理施設の開発・普及





- 家畜排せつ物中の有用物質（窒素、リン等）の効率な回収・活用技術の開発
- 食品残渣・廃棄物、汚泥、端材を肥料化・飼料化・燃料化するリサイクル技術の開発
- ICT機器を活用した個体管理による事故率の低減や家畜疾病の予防
- 多機能で省力型の革新的ワクチンの開発
- 迅速かつ的確な診断手法の開発など抗菌剤に頼らない畜産生産技術の推進
- 科学的知見を踏まえたアニマルウェルフェアの向上を図るための技術的な対応の開発・普及
- 牛のげっぷや家畜排せつ物由来の温室効果ガスを抑制する飼料の開発
- 養豚汚水浄化処理由来N₂Oを削減する炭素繊維リアクターの開発
- 飼料利用性の高い家畜の改良等

詳細は以下のウェブアドレスをご参照ください。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyos/seisaku/midori/index.html>

みどりの食料システム戦略



＜お問い合わせ先＞

農林水産省大臣官房 環境バイオマス政策課

代表：03-3502-8111（内線3292）

ダイヤルイン：03-3502-8056

Dr. 伊東の
ランダム
シンキング

第24回 我が山登りの回想

伊東 正吾

はじめに

本コラムの執筆を依頼された時、「内容は何でも良いのでお任せする」ということで説得されました。当時の私は岳人復帰を目指していたため、当初は登山紀行を主体に考えて初回（ゆめ通信No.93）に臨みました。基本的には「月に1山行」を目指し、時々紀行文を掲載するつもりでしたが、社会の出来事が多様で気がかりであったため、視点が社会問題にシフトすることが多くなりました。また、元来の技術屋としての性（さが）が影響し、私の専門分野に関する四方山話も時々紹介したため、なかなか登山紀行に行き着きませんでした。

そうこうするうちに、気づけば執筆を担当して既に4年以上、今回で執筆24回目のため、そろそろマンネリ化防止が必要の時期だと思に至りました。そうすると、当初の目論見である登山紀行は初回と前々回（No.115）の2回掲載のみのため、今回は私の登山紀行総括編として記します。なお、次の25回（No.118）で私の最終回にさせていただきます。

登山志向の原点

私は学生時代、陸上競技（中距離走）に没頭し、かたや登山にも傾倒していました。思えば、「ただ走るだけなのに面白いの?」とか、「なぜ苦しいのに、また、命を落とす危険性もあるのにわざわざ登るの?」と言われがちな分野ですが、「なぜ・・・?」との問いには明確に答えることは難しく、単に「好きだから」という回答しか持ち合わせていません。

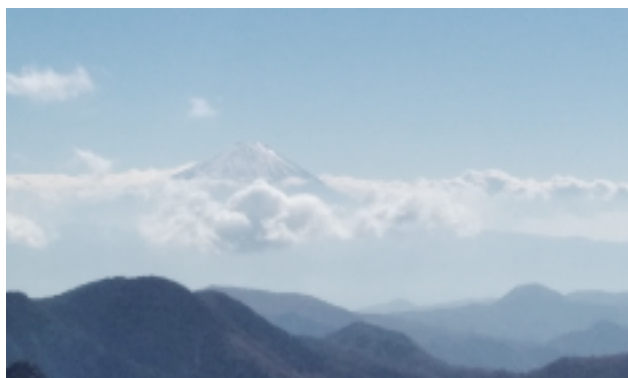
陸上競技では、中距離走の中でも特に1500m走に力を入れており、目標を「4分の壁の突破」としてかなり頑張りましたがその壁は高く、あと一歩でしたが突破できませんでした。ただ、冬期に駅伝やロ

ードレースに駆り出され、全日本大学駅伝（通称：伊勢駅伝）や全日本大学選抜能登半島一周駅伝（現在は廃止。代わる大会が出雲駅伝）に4年間出場することができ、その中で感じ取った多くの経験と、日々精進して培った体力部分とは無縁ではないようです。つまり、陸上競技や登山を介して会得した共通点として、基本的に自分自身との対峙の中に大きな意味を見出し、その点に集中して活動していたように思います。

ホームグラウンドは八ヶ岳（赤岳）

一般に、登山と言えば奥穂高岳や槍ヶ岳など名峰が並び華やかな北アルプスを連想するかも知れませんが、私は農学部4年次の時に、指導教授の指示で八ヶ岳山麓にある大学附属農場にほぼ一年間駐在した経験があります。目の前に主峰赤岳2,899mが存在していることもあり、山登りのホームグラウンドは、おのずと八ヶ岳になりました。特に主峰の赤岳には15回以上登頂しており、思い入れの強い山塊になります。

思い起こせば、夏季のある日、大学附属農場に、



雲上に浮かぶ日本のシンボル富士の頂

八ヶ岳に比較的隣接する瑞牆山山頂2230.2mに登り東方を望むと、水平の視線より若干上方に、頭部を白く化粧した富士山が雲上に顔を出す。天空に浮遊するような、幻想的な印象。2018.10.25

外部から卒業生の宿泊があり、私は夜の会食に付き合った後、真夜中に一人で懐中電灯と水および軽食を持って赤岳を登り、ご来光を拝した後に下山すると、前夜の仲間たちはまだ熟睡していたこともあり、本来ならこのような登山はご法度ですが、赤岳は自分の庭との感覚があり、体力的にも充実していた時の若気の至りであったと、今では反省もしています。

また、私の新婚旅行の際は、登山歴のない妻を説得して八ヶ岳を北から南への縦走することにこだわり、一旦下山した後は上高地の帝国ホテルに移動し、穂高連峰や河童橋、徳澤園などを堪能した結果、長野県から出ることなく過ごしました。このような行動をとるくらい、ベースは八ヶ岳と登山にありました。

八ヶ岳・赤岳登山は岳人復帰してから3回ほど計画はしたものの、天候等の理由で登る機会に恵まれず、すぐ隣の蓼科山2,531mに登頂したのみで極めて残念です。

冬山は別世界

冬山は、想定外の別世界で感動を与えてくれます(写真1)が、常に死と隣り合わせであることも周知の事実です。大学山岳部や山岳会に所属しない単独登山者の私は、基本的に冬山の技術がないため冬山は眺めるだけでしたが、大学4年次に山岳部の友人と厳冬期の北アルプス唐松岳2,696mに挑戦しました。登山当日は暴風雪で、麓の八方スキー場ははろろうじて営業していたため強行しましたが、八方池山荘を



写真1 2017年初冬の立山・雄山を室堂から望む
まだ雪の付き始めの時期であるが、降雪直後で立山・雄山や麓の室堂は一面が純白であり、見上げる空はまさしく想像を絶するほどの紺碧の空。
2017.10.31

過ぎて八方池手前辺りでは猛烈な吹雪で進行方向も見えないため移動は危険と判断し、急遽、かなり苦勞して雪洞を掘りビバークすることになりました。雪洞に転がり込んでも入口が短時間で雪に覆われ窒息死の可能性もあったため、必ず友人か私のどちらかが起きていて入口の閉塞を回避することにしました。この時は無謀な冬山登山であったと心から反省しました。嵐の通過をひたすら待ちました。朝方、かなり時間が経ち、吹き込む風がほとんどないため密閉を心配して雪洞から這い出ると、あの悪夢のような天候はどこにもなく、無音で純白の雪原と、見たこともない深い青色の空だけがありました。まるで天国かと見まがう情景でした。また、生きていてこそ見ることができる光景だと、実感しました。この6年後に、八方尾根のほぼ同じ付近で、逗子開成高校山岳部のパーティー6名(教員1名、生徒5名)が豪雪のため遭難死してしまい、私は複雑な思いをいただきました。心から、冥福を祈ります。

南アルプス・甲斐駒ヶ岳と仙丈ヶ岳

私は元来、基本的に人混みを避ける傾向にあり、山も八ヶ岳は別格として、人気が高く人出の多い北アルプスは敬遠し、懐の深い南アルプス志向にあります。特に、わが国第2位の高峰である北岳3,193m、第3位の間ノ岳3,190m(奥穂高岳と同標高)、名岩壁「摩利支天」を擁する甲斐(東)駒ヶ岳2,967m、仙丈ヶ岳3,033mの山々は思い入れが強くあります。

1976年の夏、単独行の私には珍しく、研究室の山好きと私の妹を連れて仙丈と甲斐駒の登山を敢行し



写真2 甲斐駒・仙丈登山
若かりし頃の著者のスナップ。集団登山で初級者も多くおり、諸々の理由により二人分の荷物を背負子に装着してボツボツの状態で登行開始。正直言って、持ち上げは結構しんどかった。1976.08.25



写真3 霧雨と濃霧の仙丈ヶ岳山頂で持ち上げた西瓜を食す
標高3,033mの仙丈ヶ岳山頂に無事に全員が登頂し、苦労して持ち上げた西瓜を喰らう。霧雨と濃霧のため、周囲はほとんど見えない。1976.08.26



写真4 研究室パーティーで甲斐駒にスイカ持参で初登頂
前日から一転し、快晴の中で登り、山頂の祠の前で記念撮影後、こだわって持ち上げたスイカを堪能する。なお、祠前の石の階段（5段）や、写真右側の銅像の整備された様子が確認できる。1976.08.27

ました。私は TENT や食料と西瓜 2 個を持ち上げる目的で重装備（写真 2）のため最後尾に付き、先頭には長野国体の山岳競技で優勝実績をもつ友人を配備し、万全の態勢を整えました。当時はまだ南アルプススーパー林道が利用できず、長野県側の入り口である戸台から延々と戸台川の河原を遡行しました。初日は入山のみで、翌日から登頂です。

入山 2 日目、最初のアタックはどっしり安定感の仙丈ヶ岳で、天候は霧雨と濃霧でした。最終日 3 日目は快晴。急峻でピラミダルな甲斐駒ヶ岳は最高でした。全員無事に登頂し、こだわって持ち上げた西瓜を両山頂で堪能しました（写真 3、4）。その 40 年後の 2016 年 11 月、私は雪が張りつき始めた甲斐駒山頂に再び立ち、年月による変貌を確認するとともに、神々の御座所には当時と同じ祠が変わらず鎮座する



写真5 初登頂から40年後の2016年初冬の甲斐駒山頂
写真4と比較すると、祠の本体は40年前とほぼ同じであるが、祠の周辺特に石の階段や仏像群は長い年月の自然の厳しい感作で崩れ、以前の姿をとどめていない現実がある。2016.11.05



写真6 小仙丈ヶ岳山頂から望む日本の高峰ビッグ3
日本の高峰ビッグスリーを最も間近できれいに並列した状態で見ることが出来るポイント。なお、第三位の間ノ岳は、北アルプス奥穂高岳と同一標高である。2018.10.09

様を見て感慨ひとしおで、言い知れぬ啓示を得たように思えました（写真 5）。

なお、仙丈ヶ岳ルートの眺望で私のお気に入り、日本最高峰の富士山 3,776m と、2 位の北岳、3 位の間ノ岳のトップ 3 が綺麗に並んで目の前に存在することです（写真 6）。

回想

振り返れば、一人暮らしを始め、松本城公園から見る穂高連峰と、常念岳左肩にポツンと顔を見せる孤高の山・槍ヶ岳を眺め、「男なら、一度は立ちたい槍ヶ岳」の言葉に刺激を受け、6 畳ほどの広さの槍山頂に立ったことが岳人志向の源流です。退職後に利尻岳から再開した登山は、今後も体調と社会情勢が許される範囲で足を向けるつもりです。

食肉代替食品の消費動向について

専務理事 池田 護

「良い豚、良い餌、良い管理」を掲げる豚事協は、「美味しくてヘルシー！ビタミンB群も豊富な健康食品」である国産豚肉の国内消費を多いに推し進めています。昨今新聞記事などで話題となることの多い食肉代替食品ですが、独立行政法人農畜産業振興機構（alic）が発行している「畜産の情報6月号」¹⁾と日本農業新聞6月1日朝刊²⁾にその消費動向についての掲載がありましたので、内容の簡単な紹介と食肉代替食品についての情報提供をさせていただきます。

食肉代替食品（代替肉）とは動物をと殺・食肉処理した通常の肉ではなく、大豆などの植物性原料を使い肉の味や食感を再現して作られた肉のかわりとなる植物ベースの食品の総称で、フェイクミート、大豆ミート、大豆肉、ソイミート、疑似肉、植物性タンパク、アナログミートなどとも呼ばれることがあります。我が国でも2019年ごろより拡がりを見せてきています。この拡がりの背景としては、2011年に国際連合食糧農業機関（FAO）が2050年には世界人口が100億人に達するとして、このままの傾向で動物性食品の摂取を人類が続けると地球に壊滅的なダメージを及ぼすと発したことにあります。その後は環境負荷軽減や持続可能性社会（SDGs）への意識の高まり、さらには動物倫理問題（家畜の拘束飼育や過密飼育への批判）もあり食肉代替食品市場の拡がりが加速し始めました。

食肉代替食品（代替肉）では米国のビヨンド・ミート社が先駆的存在ですが、美味しさや食感を求めていくと市場価格は通常の肉より高いのが現実です。それを扱う小売業のコストは2024年までには通常の肉と同等あるいは、それより安く販売することを公約とし注目を浴びております。

それでは調査内容をピックアップしてご紹介してまいります。「畜産の情報6月号」の調査は令和3年1月～3月にインターネット上で8カ国（日本、米国、中国、ドイツ、インドネシア、タイ、ブラジル、豪州）にて男女別×世代別×居住地域別がほぼ等しい数になるよう、1カ国約1,000人ずつを回収した結果です。詳細な説明は割愛しますが、“食肉を食べない層の割合”では日本は9%で、ドイツの13%、米国の11%

について第3位となっていました。欧米並みに食肉を食べない方が多いようです。“植物由来のハンバーガー・ハンバーグを1か月に1回以上食べる”という設問に対しては日本は9%と最低なのですが、米国の14%とあまり差がなく、習慣的に植物由来のハンバーガー・ハンバーグを食べる方が存在するようです。驚くことに“今後の食肉代替食品の喫食頻度”の設問に対しては、これも日本が最低ではありますが、「増やしたい」とする方が28%となっており、他国の60%～70%と比べると低いのですが、30%近い日本人が食肉代替食品を増やしたいと思っているのは驚きでした。

日本農業新聞6月1日朝刊では民間の調査会社が、令和3年5月21日～24日に20～69歳の男女1,100人にインターネットで回収した調査結果が掲載されていました。内容としては、食肉代替食品（代替肉）の喫食経験のある方が24%で、そのうち男性が19%、女性が29%であったとの内容でした。“今後食べてみたい”という設問に対しては全体の30%以上の方が「食べてみたい」としており、その理由として44%の方が「体に良い、体に良さそうだから」を選択しています。“植物由来”のイメージは体に良いという印象のようです。

国産豚肉の競合となりうる食肉代替食品について少し紹介させていただきました。私見ですが食肉代替食品は大豆などを食肉のように見えるようわざわざエネルギーを使って加工し、食品添加物などを添加して味や風味、食感などを整えています。環境に優しく体にも良いとは思えないのですが、皆様はどう思われますでしょうか。

【紹介文献】

- 1) 「畜産の情報」2021年6月号 No.380 70～90ページ 2021年5月25日 独立行政法人農畜産業振興機構発行
- 2) 2021年（令和3年）6月1日（火曜日）日本農業新聞朝刊9面

JASVベンチマーキング2020

参加農場178農場の2020年1月～12月間のベンチマーキング解析結果を元に、下記部門の上位三農場および各部門で成績が大きく改善された農場を部門毎に「Jump Up賞」としてJASVが表彰し、豚事協から副賞として賞金を授与しました。

全受賞者20農場のうち19農場が豚事協の組合員で、全体の9.5割を占め、有限会社高尾牧場が「母豚1頭当たり粗利益部門最優秀賞」を受賞されました。

各部門の最優秀賞受賞者は下記の通りです。おめでとうございます。(東野)

- ・母豚1頭当たり粗利益部門：有限会社高尾牧場（兵庫県・組合員）
- ・母豚1頭当たり出荷枝肉重量部門：有限会社稲波ファーム（茨城県・組合員）
- ・母豚1頭当たり離乳子豚数部門：有限会社岩徹養豚（青森県・組合員）
- ・農場枝肉FCR部門：ファロスファーム株式会社北広島・西城・御調農場（広島県・組合員）
- ・離乳後事故率部門：有限会社稲波ファーム（茨城県・組合員）

豚事協の年間行事

理 事 会

第 1 0 2 回		令和 3 年 1 月 21 日 (木) (東京)
第 1 0 3 回		令和 3 年 2 月 26 日 (金) (東京)
第 1 0 4 回		令和 3 年 4 月 22 日 (木) (東京)
第 1 0 5 回		令和 3 年 7 月 15 日 (木) (東京)
第 1 0 6 回		令和 3 年 10 月 21 日 (木) (東京)

豚事協セミナー

第 1 回		令和 3 年 7 月 8 日 (木) オンライン形式
第 2 回		令和 3 年 8 月 19 日 (木) オンライン形式
第 3 回		令和 3 年 9 月 9 日 (木) オンライン形式

女 性 部

第14回女性部セミナー 日程未定

そ の 他

海外視察研修 中止

※青字は令和3年7月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

編 集 後 記

家で過ごす時間が増え、テレビを見る時間も増えました。最近のお気に入り番組は「働く人のランチ」が主役の“サラメシ”。サラリーマンの昼食を略して“サラメシ”です。有名企業の社長さんなどのランチを取り上げることもありますが、一般の人からの投稿を基にその人のランチ風景が紹介されることもあります。手作りのお弁当を持参する人、社食でランチを摂る人、飲食店でランチを食べる人など様々ですが、驚いたことに職場のビルの屋上でキャングズを利用して調理している人もいました。そして最近特に面白かったのは、東京のオーケストラに所属するチェロ奏者のランチ。その人のこだわりは、奥様の作ったおかずを自ら詰めること。(あくまでも作るのは奥様で、本人は詰めるだけです！)ご飯を敷き詰めた上に配置にこだわりながらおかずを並べ、その上におかずが見えなくなるほどゴマを振りかけるのが日課なのとか。コメントを求められた奥様は「ひどいと思います」と苦笑い。実際にお弁当を食べている場面では、10年間その人の食べている姿の写真を撮り続けているという同僚が登場。いつもタマタマ食べているところに出くわすだけで、一緒に食事をしたりしたことは一度もないのだそう。人のランチ風景って結構面白いものです。(東)